

いちじく



第 118 号

2023 年 9 月
日本野鳥の会三重
<http://miebird.org/>

和具大島のウチャマセンニュー調査

松阪市 西村 四郎



2022 年度から、三重県レッドデータブック改訂委員会・鳥類専門部会に所属し、「三重県レッドデータブック 2025」の制定を目指して取り組んでいます。これは三重県（所管は農林水産部・みどり共生推進課）が主体となつての取組みで、2005 年 発行、2015 年 改訂と続き 2025 年が 2 回目の改訂で、野鳥の会三重が受託しています。

2023 年 6 月 17 日に和具大島（志摩市）に渡つて、ウチャマセンニューの棲息を確認してきました。9 時に和具漁港を出発し、船で和具大島まで渡してもらいました（所要時間 15 分程）。島に着くと直ぐにウチャマセンニューの囀りが聞こえてきました。小さな島で、堤防らしき石張の高い所を歩いて観察しました。巣は 2 か所、雛らしき声が聞こえました。



ウチャマセンニュー

目次

和具大島のウチャマセンニュー調査	2
表紙の言葉	2
ウチャマセンニューとシマセンニュー	4
2023 年 6 月 戸隠森林植物園宿泊探鳥会	6
事務局だより	7
戸隠高原宿泊探鳥会に参加して	8
「ツバメの見守り」ありがとう！	9
市民のアイドル!? カルガモの子育て	10
ほのぼの鳥さん Watching 「つばめのねぐら入り」	12
野鳥記録	14
釈迦ヶ岳に登って鳥類調査をしました	18
2023 野鳥の会三重総会	18
探鳥会予告	20
探鳥会報告（2023 年 4 月～2023 年 7 月）	20
編集後記	24

「シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化」の連載は 117 号で終了しました。

8 年間に渡りご愛読いただきありがとうございました。これまでの観察を振り返り、強く印象に残ったシギ・チドリたちの行動を次号に予定しています。（今井光昌）

表紙の言葉

シロハラ

松阪市 小野 新子

毎年 1 月の半ばになるとツグミの仲間が庭にやって来る。年によってツグミだったりマミチャジナイだったりシロハラだったり・・・ 4 月半ばまで庭を占領するのは一種類だけで、今年はシロハラだった。掃き出し窓のブラインドを下し、室内から観察をしているとそれぞれに個性があつておもしろい。ツグミは小首をかしげ、紙面の下のみみずをほぼ百発百中で探し当てる・・・マミチャジナイは、なぜか毎回立ち止まって室内を覗き込んでいく・・・シロハラが来ると落ち葉を掻きわける音ですぐわかるが、ガラス戸の前は大急ぎで走り去って行くのだ・・・。

四月の初旬、シロハラが“ギニューギニューチェツチエツ”？と変な鳴き方をした後水浴びをした。唐木蓮の咲く枝で一心不乱に羽繕いをしている様子を見ていて発見！ずっと地味な鳥だと思っていたが、尾羽の両外三枚の先が真っ白だ。隠れた所にさりげなくおしゃれをしているシロハラが、何か素敵に見えてきた。それから間もなくして彼は庭に姿を見せなくなった。



和具大島（北側より島を見る）

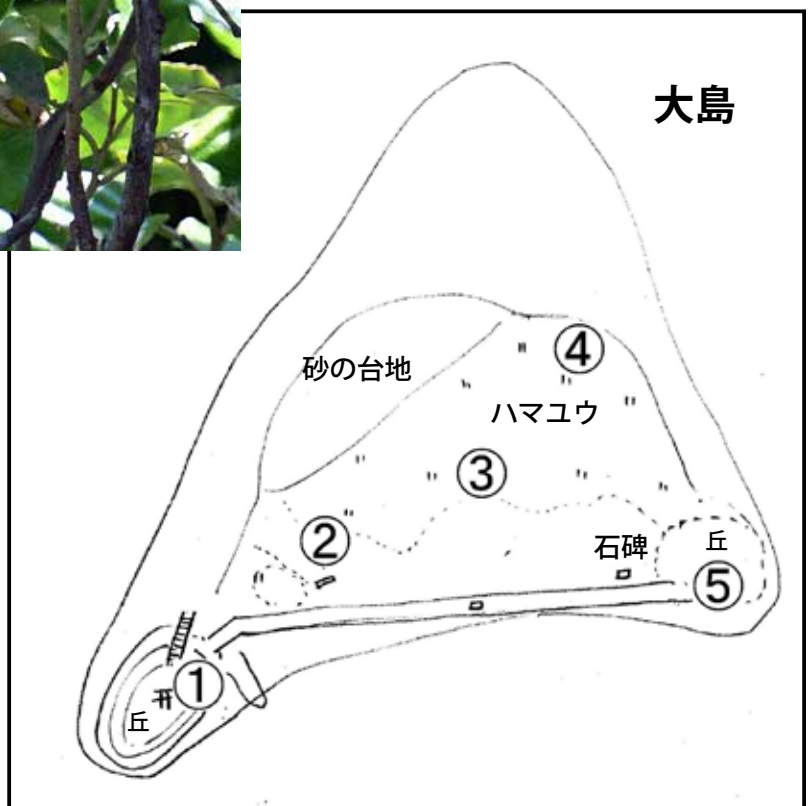


囀るウチャマセンニュウ

他の鳥は、ウミネコ、カワウ、ミサゴ（若）、カルガモでした。カルガモの巣があり、卵が11個確認できました。抱卵中でした。

植物は、ノブドウ、ハマナタマメ、ハマゴウ、ネコノシタ等で、三重県指定天然記念物「暖地性砂防植物群落」に指定されています。

調査に当たっては、地元の会員である中村みつ子氏に渡船の段取りや、所有者・管理者への連絡、ウチャマセンニュウの調査などいろいろお世話になりました。



和具大島 概要図

①～⑤の位置を中心に5ペア確認できました。
巣は2か所、雛らしき声が聞こえました。



はじめに

センニュウ類は我々本州中部に住むバーダーにとって馴染みの薄い鳥である。繁殖しているセンニュウ類は、離島でのウチャマセンニュウだけで、他にはおらず、越冬についてもつい最近オオセッカが少数越冬しているのがわかっただけである（西2023）。センニュウ類はウグイスとよく似て、地味で、囀る時以外はヤブの中で生活するので、目につきにくい。尾羽は中央の尾羽の長い、はっきりとした凸形であり、有効な識別点であるが、野外で尾羽をじっくり観察することは稀である。かつてはウグイス科に入れられていたが、最近の分類学ではセンニュウ科として独立した科が建てられている。日本で見られるセンニュウ類は第1表にあるように6種である。オオセッカもセッカの仲間ではなく、センニュウ類である（第1表）。

近年、ミトコンドリア、および核のDNA配列にもとづく研究によってセンニュウ属 *Locustella* は *Locustella* と *Helopsaltes* の2属に分けられており（Alström 他）、IUCN（国際自然保護連合）や、Bird Life International では属名として、*Helopsaltes* が使われている。ここではそれに従う（第1表）。*Helopsaltes* 属のセンニュウはいずれもシベリア東部、極東に生息する。また、北海道、サハリン、千島列島で繁殖するエゾセンニュウは大陸で繁殖するものと別種とされ、新たな種小名が与えられている。日本で広く用いられている学名と異なるので注意されたい。なお、ウチャマセンニュウはかつてシマセンニュウの亜種として扱われていた。今では独立して種とされている。ただし、上記の研究でもこの2種の差はわずかであり、最近まで遺伝子の交流があった可能性が示唆される（Alström 他）。以降、

この2種について述べる。

分布

シマセンニュウはオホーツク海沿岸、北部のマガダン、西部のシャンタル諸島、サハリン、カムチャツカ半島と、道南を除く北海道の沿岸部で繁殖する。冬は日本列島日本海側、中国沿岸部を通って、フィリピン、ボルネオ島で越冬する。

ウチャマセンニュウの繁殖地は上記シマセンニュウのそれよりも南で、知られている繁殖地で最も北はロシア、ウラジオストクのピョートル大帝湾の島嶼である。その他日本近海、太平洋側では伊豆諸島、三宅島など、三重、和歌山、宮崎県、鹿児島県の離島で繁殖する。日本海側では島根県中海、福岡県博多湾付近の島嶼、長崎県の離島などで、また瀬戸内海の離島でも繁殖する（第2表）。さらに朝鮮半島沿岸の島嶼で繁殖する。越冬地は香港、ベトナム、トンキン湾沿岸が知られているが、詳細は不明。

識別

さて、両種の識別点であるが、囀りは異なる。繁殖地以外では囀らないので、形態による識別が困難である。手に持てば、初列風切の長さの違いで識別できる。この違いは翼式で表す。初列風切は内側から1, 2, 3と番号をふる。スズメ目の鳥では全部で10枚であるが、10枚目は極端に短く、通常見えるのは9までである。ウチャマでは各羽の長さの順は $8 > 7 > 6 > 9 > 5$ であるが、シマセンニュウでは初列風切最外の9が長く、翼式は $8 > 7 > 9 > 6 > 5$ あるいは $8 > 9 > 7 > 6 > 5$ となる。嘴はウチャマセンニュウの方が長く、しっかりしているとされ、嘴峰長はウチャマでは18.5—21 mm、シマセンニュウでは

第1表 日本で見られるセンニュウ類		
和名	英名	学名
マキノセンニュウ	Lanceolated Warbler	(<i>Locustella lanceolata</i>)
オオセッカ	Japanese Swamp Warbler	(<i>Helopsaltes pryeri</i>)
エゾセンニュウ	Sakhalin Grasshopper Warbler	(<i>Helopsaltes amnicola</i>)
シベリアセンニュウ	Pallas's Grasshopper Warbler	(<i>Helopsaltes certhiola</i>)
シマセンニュウ	Middendorff's Grasshopper Warbler	(<i>Helopsaltes ochotensis</i>)
ウチャマセンニュウ	Styan's Grasshopper Warbler	(<i>Helopsaltes pleskei</i>)
注：オオセッカには Marsh Grassbird という英名もある。		

15.5—17.5 mm とされている (Baker 1997)。いずれにせよ、わずかな違いであり、繁殖地以外で野外での観察や撮影画像でこの 2 種を識別することは至難である。

日本でのウチャマセンニュウの繁殖地

この 2 種のセンニュウ類の繁殖地はいずれも海沿いの灌木を混じえた草地である。営巣も当然灌木上か草の中であり、地上性の捕食者に狙われる。捕食者の近づきにくい区域を選んで繁殖していると考えられる。その点、離島での繁殖は理想的であろう。

日本でウチャマセンニュウがレッドリストに挙げられている県は 12 都県である (第 2 表)。これらの都県では繁殖している可能性があるが、静岡、徳島県での情報は把握できなかった。その他の都県もウェブ上の情報は断片的であった。ただ、福岡県ではかなり調査が行き届いていると考えられる (永田 2008)。第 2 表ではネット上で把握できる情報を列挙したが、表に挙げた以外でも調査されている場所、離島があると思われる。いずれにせよ、繁殖地の多くは無人島である。

三重県でのウチャマセンニュウの記録

三重県では紀伊長島沖の耳穴島で 1969 年に繁殖が確認され (倉田 1971)、1972 年また 1974 年、いずれも少数が繁殖することが、樋口行雄により確認されている。島名は記載されていないが耳穴島であろう (著者不詳 1987)。さらに、紀伊長島沖の大島では 1982 年 5 月 16 日、須川 恒が

標識調査でシマセンニュウを捕獲、放鳥しているが、これは当時の分類では亜種、ウチャマセンニュウ、すなわち現在のウチャマセンニュウであろう。一方、和具大島 (志摩市) での繁殖も、古くから知られていた。

筆者も当会会員の中村みつ子氏の案内で、2000 年 6 月 10 日に和具大島と小島に渡島した。小島では 2 羽が同時に囀っており、2 つがい繁殖の可能性が、大島では、西側の神社で 1 羽、中央で 4 羽、東側で 1 羽が囀っており、6 つがい繁殖の可能性があった。今年、2023 年の記録は本誌西村四郎の報告を見られたい。

その他、県内には鳥羽周辺など、多くの離島があり、海岸近くに草地がある離島では繁殖の可能性であろう。まとまった調査が、望まれる。

引用文献

Alström, P., Cibois, A., Irestedt, M., Zuccon, D., Gelang, M., Fjeldså, J., Andersen, M.J., Moyle, R. G., Pasquet, E., Olsson U. (2018) Comprehensive molecular phylogeny of the grassbirds and allies (Locustellidae) reveals extensive non-monophyly of traditional genera, and a proposal for a new classification. Mol. Phylog. and Evol. 127: 367-375.

Baker, K (1997) Warblers of Europe, Asia and North Africa. Christopher Helm, London.

BirdLife International (2023) Species factsheet: Helopsaltes ochotensis. Downloaded from <http://datazone.birdlife.org/species/factsheet/middendorffs-grasshopper-warbler-helopsaltes-ochotensis>

on 13/08/2023.

BirdLife International (2023) Species factsheet: Helopsaltes pleskei. Downloaded from <http://datazone.birdlife.org/species/factsheet/pleskes-grasshopper-warbler-helopsaltes-pleskei> on 13/08/2023

倉田 篤 (1971) 紀伊長島の鳥類 紀伊長島町 紀伊長島

永田 尚志 (2008) ウチャマセンニュウ Bird Research News 5(5)

西 教生 (2023) 三重県南部で越冬するオオセッカ. しろちどり No.116: 2-3.

小川次郎・渡辺奈央・松井宏光・大森浩二 (2016) 瀬戸内海忽那諸島およびその周辺島嶼部における絶滅危惧種ウチャマセンニュウ Locustella pleskei の生息状況. Strix 32: 125-133.

著者不詳 (1987) 三重県における鳥類分布・生息に関する調査. 三重県農林水産部林業事務局 緑化推進課 津

第2表 日本におけるウチャマセンニュウの繁殖地	
東京都	伊豆諸島 三宅島など
静岡県	不明
三重県	和具大島、おそらく紀北大島でも繁殖、
和歌山県	新宮市 鈴島、孔島
徳島県	不明
愛媛県	松山市小安居島のみで生息が確認されていたが、近年他の 6 島で繁殖確認
島根県	中海鳥獣保護区
福岡県	福岡市博多湾の離島大机島、志賀島属島沖津島、宗像市沖ノ島など
長崎県	平戸市 阿値賀島。
熊本県	牛深沖ノ島
宮崎県	日向市細島
鹿児島県	指宿市 田良岬の離島、知林島

今年 5 月からコロナによる行動制限がなくなり、以前と同じように宿泊探鳥会を開催することができました。今回南勢地区が担当するのは 5 年ぶり。6 月 9 日(金)～10 日(土)、行き先はこれまで企画されてこなかった長野県「戸隠森林植物園」を訪れました。梅雨の最中でしたが、2 日間とも良いお天気に恵まれました。

三重から長野へ

行き先が新潟県の県境近くと遠距離のため、集合地を 1 か所「津駅」だけにして移動時間の短縮を図りました。早朝、バスは定刻通り出発。座席は 1 人で 2 席を使い、こまめに休憩をとりました。目的地まで約 6 時間の長い乗車でしたが、野鳥ビデオの鑑賞やゲームなどで楽しく過ごしました。昼食は辰野 PA で積み込んだお弁当を車内でいただきました。長野県に入ると高い山々が連なり雄大な風景が広がります。戸隠森林植物園に到着したのは午後 2 時頃でした。まず目に飛び込んだのは、戸隠連峰をバックに現れた「みどりが池」。皆さん、美しい景色に見とれていました。ここで集合写真を撮りました。

戸隠森林植物園や周辺での観察

【1 日目】14:00～16:30

園内には、他の利用者はほとんどいませんでした。参加者は、自分のペースで自由に観察をしました。みどりが池にはカイツブリ、カルガモがいて、それぞれ数羽のヒナを連れていました。どんな鳥でもヒナは人気で「かわいい!」「何羽いる?」などと盛り上がりました。池のふちの樹木には、モリアオガエルの卵塊がたくさん付いていました。帰りがけに広場でアカハラがエサを捕っていて、ゆっくり観察できました。



戸隠森林植物園にて観察中



集合写真

【2 日目】5:00～7:30(朝食)～8:00～10:00(出発)

早朝探鳥会には全員が参加しました。外は薄明るいものの肌寒く、ほとんどの方がヤッケなどを着ていました。「白樺荘」から植物園までの道中でキビタキが目の前に現れたり、園内では近くでミソサザイが囀っていましたが、他の小鳥はしっかり見ることができませんでした。見やすかったのはカッコウ、大きな木のでっぺんに止まり、「カッコウ」と鳴くので間違えることはありません。あとはアカゲラ、宿の近くの木に営巣していて、ひっきりなしにヒナにエサを運んでいました。子育ての妨害にならないよう離れた所から観察しましたが、「こんな家の近くで営巣するなんて」と驚きの声が聞かれました。



アカハラ



ゴジュウカラ

まとめ

今回の探鳥旅行は、当初の計画より時期が少し遅かったので、すでに繁殖期に入っていたためか小鳥は見つけにくかったように感じました。しかし、標高の高い森林植物園だけあって三重ではあまり見ることがない植物があり、美しい草花や樹木も堪能しました。

午前 10 時「白樺荘」を出発したあと、「道の駅しなの」に寄り、松本市内の味噌蔵「石井味噌」で昼食をとりました。その後バスは順調に走り、午後 6 時半 津駅前に着きました。ご参加いただいた皆さん、またゲームやビデオを準備してもらった中村真理子さん、笹間さん、ありがとうございました。

写真提供： 中西 章、中村 真理子

【探鳥会としての記録】

参加者 20 名

なお、確認種については探鳥会報告をごらんください。



キビタキ

事務局だより

活動の記録 (2023 年 4 月～7 月)

- 4 / 23 猛禽類保護のため猪名部神社を訪問
- 5 / 14 理事会 (津市)
- 5 / 26 会報誌編集作業・入稿作業
- 5 / 31 会報誌「しろちどり第 117 号」発行・発送作業
RDB 改訂委員会へ出席 (副代表)
- 6 / 18 2023 年度日本野鳥の会三重 総会 & 野鳥講座 開催
- 6 / 19 ツバメの子育て応援事業 感謝状の贈呈 (大紀町)
- 6 / 24 チュウヒサミットの件で岡山県へ (保護部)
- 7 / 1 ~ 17 三重県内水面漁業協同組合連合会との契約でカワウ調査 (7 月) を実施
- 7 / 26 ミヤコドリ一斉調査



2023年6月9日から10日の戸隠高原探鳥会に参加させていただきました。戸隠高原は信州でも遠い所というイメージでしたが、会員の方々から鳥の種類が多くしかも見やすい所ですよと教えていただき、ぜひ行ってみたいと思い参加を決めました。

戸隠森林植物園に着いて、みどり池ではまだ幼いヒナ達を連れたカルガモとカイツブリを観察しました。カイツブリのヒナ達は、親の羽の間から顔を出す愛らしい姿も見せてくれました。森の中へ入ると、ハルゼミのにぎやかな声で鳥の声がかき消されそうです。そんな中、初めて聞くアオジの囀り。冬に聞き漏らしそうな小さな地鳴きをするアオジが、こんなにきれいな声で高らかに囀るのかと新鮮な驚きでした。



2日目は早朝から探鳥開始。戸隠山が霧の上から顔を出し、霧に包まれた森に朝日が射し込む幻想的な空気の中、鳥達の歌声があちらこちらから聞こえてきます。今回の探鳥会では、初めて見るゴジュウカラ、カッコウ、アカゲラ、ニュウナイスズメとの嬉しい出会いもありました。また繁殖期ならではの鳥達の様子を観察できたのも新鮮な体験でした。初めはヒナへの給餌かと思われたサンショウクイの求愛給餌、巣の近く（たぶん）に居座るイカルに怒るコサメビタキの親達。特にアカゲラのヒナへの給餌の様子をじっくり見られたのは一番のハイライトでした。餌をねだるヒナの声に急かされ、5分おきくらいに餌を運んでくる親鳥。時々顔を出すヒナを見ていると巣立ちが近いのか、しっかりした顔立ちのヒナと少し幼い顔のヒナの違いが見てとれました。

鳥の他にも池畔の木にぶら下がるモリアオガエルの卵。池に浮かんでいるのは、今放映中の朝ドラに出てきたヒルムシロの葉と教えていただきました。白い花穂のコバイケンソウや目を引く赤いクリンソウの花の群落、大きな葉陰にあるミズバショウの実等も見られ、植物やトンボ、チョウに詳しい方々は他にも次々に観察されていました。戸隠の山に育まれたこの森の豊かなことを感じました。

今回初心者の方がこの様な体験ができたのも先輩方と一緒に観察する中でいろいろ教えていただき気付かせて下さったおかげと感謝しております。まだまだ知らない気付いていない野鳥や自然の世界に入っていけることを楽しみに、これからも観察を続けていきたいと思っています。

「ツバメの見守り」ありがとう！

事務局 西村 泉



2023年6月19日（月）、公益財団法人日本野鳥の会（東京）は、度会郡大紀町にある「株式会社 釣りエサ市場」（渡邊典浩代表取締役）にツバメの子育て見守り感謝状を贈呈しました。県内での感謝状贈呈は、今回で3例目。

近年、餌場となる田畑が減少しており、巣作りがしにくい新建材による家の増加、さらに不衛生との理由でツバメの巣を落とすなど様々な要因で、ツバメの数が激減しています。そこで同会は、ツバメと人との共存をめざし、2019年からツバメの子育てを見守る団体に感謝状を贈呈しています。今年は、全国で27団体（1道13県）が選ばれました。

この日は、「釣りエサ市場」を推薦した「日本野鳥の会三重」が店舗を訪れ、吉崎幸一監事から渡邊代表に感謝状を手渡しました。

渡邊代表は、三重県内水面漁業協同組合連合会 / 大内山川漁業協同組合代表理事組合長を兼務され、2010年この店舗を構えてから、毎年飛来するツバメの子育てを見守ってきました。

6月現在、ツバメの巣は子育て中やヒナが巣立って空になったり、新たに巣作りしているものを含めると約40巣ありました。なかにはヒナが巣から落下し高い天井にある巣には戻せないため、やむを得ず巣立ちまで面倒を見ることもあるとか。

渡邊代表は、「当たり前のことをやっているのに感謝状をもらい光栄です。ツバメとの共存は大事なことなので多くの人に知ってもらい、地域全体で守っていきたい」と感想を述べ、また吉崎監事は、「ツバメの見守りや自然を大切にすることに賛同してくれる人を増やしたい」と話しました。



表彰式の様子



釣りエサ市場



ツバメの巣

市民のアイドル!? カルガモの子育て

津市 岡本 めぐみ



毎年5月後半になると、全国各地で見られるカルガモの親子。津市役所の小さな人工池でも毎年、多くの人々に見守られながらカルガモが繁殖しており、かわいいヒナの姿は市役所を訪れる人々だけでなく、市内外から訪れるカメラマンの楽しみにもなっています。ここでは引越しはせず成鳥になるまでこの池で過ごします。

今年（2023年）も5月末に7羽のヒナが孵りました（人によって孵化したという日が違うので日付の記載は控えます）。カルガモ親子は、母鳥の後ろをついてヒナ達が泳いでいくというのが一般的ですが、ここではその姿は生まれて数日のみ。ヒナ達は小さい池の中を自由に泳ぎ回り、母鳥はその後をついて泳いだり（画像1）離れて見守ったりしています。

ブロックの上でお昼寝する時は、しっかりと母鳥のお腹の中で守られていて、母鳥も一時の休息の様です（画像2）が、1羽だけ早々に起き出して泳ぎ回る子がいて、母鳥はあまりゆっくり寝てもらえません。人工池で人の多い中での穏やか



（画像2）



（画像1）

な子育てに見えますが、自然界の危険もあり、毎年カラスに襲われて命を落とすヒナがいます。昨年その現場に居合わせた方に、その時の状況を今年になって伺いました。「近くの木にとまっていたカラスが、池を泳いでいたヒナに襲いかかり、1度目は連れ去る事なくヒナが怪我をした様子で、その後2度目に同じヒナに再び襲いかかり連れ去った。」そうです。今年も小さなうちに7羽から6羽になりました。母鳥は愛情いっぱい育てています（画像3）。

また市街地の人工池ならではの危険もあります。ヒナ達が集まって水面で何かを突いてるので餌でもあるのかと観察してみると、緑色のビニール紐が浮いていて細長い藻の様に見えました。それをヒナ達が食べようと群がっていたのです（画像4）。



（画像3）

海洋ゴミやマイクロプラスチック問題同様、ヒナが食べてしまったら当然消化はできず胃の中に溜まってしまいます。幸いうまく飲み込めない様でしたが何度も突ついて、ビニール紐は少しずつほぐれてきます。取り除きたくて、市



(画像4)

役所の職員さんでカルガモに好意的な方を探して協力していただき、池から紐を除去できました。しかし、ほぐれた細いビニール紐が



(画像5)



(画像6)

残っていたようでそれを咥えているヒナがいました(画像5)。

6月になると、母鳥以外にも常に成鳥を見かけるようになり、母鳥と一緒に子育て(ヒナ達の見張り)をしている様でした(画像6)。観察していると、ヒナ達の巣があった隣の草むらの隙間から卵が見えていました。もう1羽の成鳥がそこで営巣している様で、卵は見えただけでも3個あります(後日4個と確認)。隣の草むらに営巣したので、この成鳥を「お隣さん」と呼ぶことにしました。

6月初旬の大雨でお隣さんの卵が流されてしまい翌朝に卵が2つ水面に浮かんでいましたが、お隣さんは巣で抱卵を続けていました。母鳥とお隣さんが交代で抱卵しており、ヒナ達はお隣さんの草むらでお昼寝したり、抱卵している成鳥のお腹の下に潜り込んでお昼寝したり、2羽の成鳥のどちらが母鳥でどちらがお隣さんなのか？わからない状況です。その後も順調に成長していましたが、6月後半に6羽いたヒナが5羽になってしまいました。

6羽の最終確認は6月25日。カラスの仕業なのか？猫なのか？原因不明ですがまだまだ危険がいっぱいです。

お隣さんの巣での抱卵は1か月以上続きましたが孵化することではなく、7月初旬には抱卵を諦め、もう殆ど成鳥の姿になった元ヒナ達と母鳥と一緒に7羽で泳いでいました。7月26日現在、出かけたり戻ってきたりしているようですが、母鳥、お隣さん、元ヒナ達の合計7羽で小さな池で過ごしています。来年もそしてこれからもこの小さな池で営巣して、かわいいヒナ達の姿が見られることを願います。




夕暮れ間近の空は水色。
強い日差しを避けながらその時を待つ。
飛んでいるのはトンボが数匹と大極殿にはチョウゲンボウの姿。

次第に東は青藤色、夕日の落ちた西は砥粉色に染まり始める。
来た… 一羽、また一羽、どこからともなく現れるツバメたち。
彼らはいったいどこでどうやって待ち合わせたのか？
不思議がっている間にも四方八方からどんどん集まってくる。
目の前をかすめ飛ぶもの、上空を舞うもの、あれよあれよという間に
辺りは彼らの鳴き声で埋め尽くされていく。

数を増やしたツバメたちは薄群青のはるか上空を
黒くのったり渦を巻くように飛行する。
その数は6万羽を超える。
空を見上げる人々のぽかんとあいた口からは
「すごい」の言葉しか出てこない。
体重わずか18gの小鳥に圧倒される瞬間。

そう、この世界は人間だけのものではないのだ。



私の家の軒下で子育てをしていたお父さんお母さん。
小さな巣からあふれるように巣立っていったあの子たち。
ああ、彼らも今この中にいるのだろうか。
そんな思いが私の胸にこみ上げる。

濃藍の空に星が光りだす。
一気に葭原に吸い込まれるように舞い降りるツバメたち。
さっきまでのショーは夢だったかのように静まり返った空には
コウモリがヒラヒラと飛び始め、聞こえるのは秋の訪れを告げる
虫の声だけに。

まだ熱が残るアスファルトの上を、私たちは言葉少なに車へと歩く。
これから南の地を目指し、遠く海を渡っていく
彼らの旅の無事を祈りながら…

日本画/M.Nakamura

野鳥記録 (2023 年 4 月 21 日から 2023 年 8 月 1 日までに報告があったもの)



鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所	雄 / 雌 / などの 区別	記録報告者 氏名	脚注
トモエガモ	1	2017/11/03	紀宝町相野谷川		清水 勝海	1
セイタカシギ	82	2020/04/14	御浜町下市木		清水 勝海	2
ヒレンジャク	22	2020/11/21	御浜町下市木		清水 勝海	3
キレンジャク	5	2020/11/21	御浜町下市木		清水 勝海	4
ナベヅル	1	2022/11/18	紀宝町神内		清水 勝海	5
シマアジ	1	2023/04/16	御浜町志原		清水 勝海	6
シマアジ	3	2023/04/18	四日市市 鈴鹿川派川	雄 3	笹間 俊秋	7
コムクドリ	1	2023/04/22	四日市市 垂坂公園	雄	今西 純一	8
キビタキ	1	2023/04/22	四日市市 垂坂公園	雄	今西 純一	9
アカハラ	3	2023/04/23	四日市市 垂坂公園	雄 1, 雌 2	今西 純一	10
センダイムシクイ	1	2023/04/23	四日市市 垂坂公園		今西 純一	11
ツバメチドリ	1	2023/04/23	紀宝町神内		清水 勝海	12
チュウシャクシギ	2	2023/04/27	御浜町下市木		清水 勝海	13
ツバメチドリ	2	2023/04/27	御浜町下市木		清水 勝海	14
トウネン	2	2023/04/27	御浜町下市木		清水 勝海	15
クロトウゾクカモメ	1	2023/04/30	鈴鹿市箕田町		笹間 俊秋	16
シロチドリ	3	2023/04/30	鈴鹿市箕田町	雛 2	笹間 俊秋	17
ケリ	2	2023/05/05	紀宝町大里		清水 勝海	18
シラコバト	1	2023/05/08	明和町		岡本 めぐみ	19
ツバメチドリ	4	2023/05/15	御浜町下市木		沢本 浩志	20
サンコウチヨウ	2	2023/05/20	四日市市 垂坂公園		今西 純一	21
サンコウチヨウ	5	2023/05/21	菰野町 三重県民の森	雄 3, 雌 2	入船 眞一	22
コシアカツバメ	5	2023/05/23	御浜町阿田和		清水 勝海	23
カワアイサ	2	2023/05/24	松阪市飯高町 櫛田川	雄 1、雌 1	西村 四郎	24
オオアカゲラ	1	2023/06/16	鈴鹿市 入道ヶ岳林道		笹間 俊秋	25
ヨタカ	1	2023/06/18	菰野町 朝明溪谷		小坂 里香	26
アカガシラサギ	1	2023/06/22	御浜町下市木		清水 勝海	27
ヒクイナ	1	2023/06/27	御浜町志原		清水 勝海	28
カササギ	1	2023/06/28	木曽岬町 木曽岬干拓地		笹間 俊秋	29
オシドリ	1	2023/06/30	大台町	成鳥雄	中村 真理子	30
コサメビタキ	2	2023/07/06	松阪市 ベルファーム	幼鳥	山下 博寿	31
イカル	1	2023/07/06	松阪市 ベルファーム	幼鳥	山下 博寿	32
オシドリ	2	2023/07/16	大台町	雌、幼羽 2	西村 四郎	33
ササゴイ	1	2023/07/17	南伊勢町内瀬	成鳥	井上 梓	34
オオジシギ	1	2023/07/21	鈴鹿市長太町		笹間 俊秋	35
ベニバト	1	2023/07/22	御浜町下市木	雄	沢本 浩志	36
ヒクイナ	1	2023/07/23	御浜町志原		沢本 浩志	37
セイタカシギ	1	2023/07/23	熊野市有馬町		沢本 浩志	38
オオメダイチドリ	1	2023/07/25	伊勢市村松町	成鳥	中西 まほ	39

脚注

7. 雄 2 羽と離れたところに 1 羽がいた。翌日には 1 羽になった。
8. 垂坂公園では 2013 / 4 / 2 以来、10 年ぶりの記録。
10. 雌 2 羽は昨年と同じ場所で採餌。4 / 2 に観察した雄（推定オオアカハラ）も滞在中。
11. 12 時頃の日中だがさえずっていた。姿は見えず。
16. ユリカモメに威嚇されて飛んでくる黒いカモメ。大きさや尾羽の形状からクロトウゾクカモメと判断。
17. 卵がつぶされていると聞いて行くと 2 羽の雛を連れたシロチドリがいた。
19. ドバトの群れから、少し離れて 1 羽でいた。飼育されているものかもしれないが、一応報告する。
20. 田んぼのあぜ道で見かけた。疲れているのか、1 羽は地面にうずくまっていた。
21. 姿はチラっとしか見えなかったが、よく鳴いていた。2 羽以上いたと思う。
22. 2、3 日前から飛来してきたと思われる。
24. この時期にカワアイサでビックリ。左は雨覆いが白く雄、まだ若鳥。右は雌。
26. 夕方、頭上をヨタカが鳴きながら飛んだ。
29. 堤防上の木にとまった。
30. 溜池にいた。夏には珍しいので繁殖していればいいな～と期待。
31. 近くに親と数羽の幼鳥確認。ここで繁殖か？
32. いつもとは違う顔、羽色だったので幼鳥と判断した。
33. 6 / 30 に成鳥・雄がいた。この日は幼羽雌 2 で、7 / 28 も幼羽雌 2 羽いた。
34. 採餌
35. ジシギが田んぼにいたので、タシギとっていたら、オオジシギ。
36. キジバトと一緒に行動していた。
37. 警戒心が強く、田んぼの稲の中にすぐに隠れた。
38. 水の入った田んぼで 1 羽だけいた。
39. 遠目にはメダイチドリかと思ったが、違和感があり、オオメダイチドリ。成鳥がこの時期には、めずらしいのでは？元気に浜辺をかけまわっていた。



アカガシラサギ：清水 勝海



カササギ：笹間 俊秋



セイタカシギ：清水 勝海



オオメダイチドリ：中西 まほ



オシドリ：中村 真理子



コムクドリ：今西 純一



ササゴイ：井上 梓



ベニバト：沢本 浩志



クロトウゾクカモメ：笹間 俊秋



オシドリ：西村 四郎



コサメビタキ：山下 博寿



サンコウチヨウ：入船 眞一



シラコバト：岡本 めぐみ



カワアイサ：西村 四郎



ツバメチドリ：沢本 浩志



釈迦ヶ岳に登って鳥類調査をしました

桑名市 近藤 義孝

2023年6月20日4時から、笹間理事と一緒に釈迦ヶ岳(1,092m)で鳥類調査をしました。しろうどり117号で紹介したレッドデータの鳥類調査です。

今回の目的は、比較的高い1,000m付近でよく観察されるコルリなどの鳥類です。今回のコースは右の図のとおりですが、上りは松尾尾根コースです。登り始めてすぐにキビタキがさえずっています。キビタキは今回のコースで最もよく観察された鳥類でした。今回はヒヨドリよりも多く観察できました。少し登っていくとアカショウビンのさえずりが聞こえてきました。アカショウビンは増えているようですが、今回はいろいろな方向から聞こえてきました。

標高が高くなると、ジュウイチ、アカゲラ、アオゲラなどが鳴き始めました。頂上近くまで登っても、残念ながらコルリやコマドリなどの鳴き声は聞こえませんでした。シカが増加したために、鈴鹿山脈では各地でササ原が減少し、シダなどになっています。そのため、コルリなどの繁殖などが難しくなっているようです。同じような環境に生息する特定外来生物のソウシチョウも、減少しているのは皮肉なことです。

記録できた鳥類と羽数、観察したコースを右記に示します。



見られた鳥類

キジバト 3、ジュウイチ 4、ホトトギス 3、アカショウビン 5、アカゲラ 3、アオゲラ 1、カケス 2、ハシブトガラス 4、コガラ 4、ヒガラ 5、シジュウカラ 6、ヒヨドリ 10、ウグイス 15、エナガ 10、ミソサザイ 5、キビタキ 20、オオルリ 3、イカル 8、ホオジロ 10、コジュケイ 1 計 20 種



2023 野鳥の会三重総会

野鳥の会三重の総会は2023年6月18日松阪嬉野ふるさと会館多目的ホールにおいて開催された。対面での総会が開かれたのは2019年6月が最後であり、4年ぶりの対面での総会となった。

総会には29名の会員が参加した。2022年度活動報告、決算、2023年度活動計画、予算案が提出され、承認を受けた。また、本年は役員改選の年にあたり、役員候補が出され、承認された。改選後の役員会で、理事など役職が決められた。以下の通りである。なお、下線は新任である。

平井正志(代表、編集部長) 近藤義孝(副代表、保護部長) 前澤昭彦(研究部長)
西村四郎(企画部長) 西村泉(事務局長) 中西章(財務担当) 三曾田明(広報担当、編集部)
吉崎幸一(監事)、小坂里香(監事)、笹間俊秋(編集部)、伊藤 通数、川瀬裕之、南一朗、沢本浩志

総会後、当会会員 今井光昌さんによって「野鳥の暮らしー水鳥たちの驚きの食生活ー」と題した話があり、会員外の方も含め、35名の参加があった。

(平井 正志)

日本野鳥の会 三重 令和5年度(2023年度)予算書(案)

令和5年度 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日

単位:円

科 目	4年度決算	令和5年度予算	比較増減	備 考	令和5年度予算会計区分	
	一般・特別合算	一般・特別合算			一般会計	特別会計
<事業高>						
支部会費	612,500	600,000	-12,500	2000円/1人	600,000	0
受託収入	1,727,000	1,606,700	-120,300	カワウ・ガンカモ・RDB	0	1,606,700
受取補助金	0	0	0		0	0
受取寄付金	23,974	0	-23,974		0	0
事業高合計	2,363,474	2,206,700	-156,774		600,000	1,606,700
事業利益	2,363,474	2,206,700	-156,774		600,000	1,606,700
<事業管理費>						
支払調査費	986,286	900,000	-86,286	カワウ・ガンカモ・RDB	0	900,000
通信費	230,808	214,000	-16,808	会報送料他	159,033	54,967
印刷費	256,210	285,000	28,790	会報発行、行事	274,807	10,193
消耗品費	177,383	117,000	-60,383	封筒代、事務用品	96,797	20,203
会場費	0	15,000	15,000		7,719	7,281
会議費	0	8,000	8,000		5,816	2,184
旅費交通費	398,130	580,000	181,870	会議・調査・旅行補助等	201,752	378,248
支払手数料	22,000	22,000	0		5,982	16,018
講師謝礼金	0	20,000	20,000		20,000	0
図書費	0	3,000	3,000		816	2,184
チュウヒサミット費	0	100,000	100,000	会場費他	100,000	0
諸会費	5,000	5,000	0		5,000	0
雑費	75,154	72,700	-2,454	HP・LINE費用、振込料	57,788	14,912
事務費	40,000	38,000	-2,000	カワウ・ガンカモ・RDB	0	38,000
保険費	125,090	155,000	29,910	カワウ・ガンカモ・RDB	0	155,000
一般管理費合計	2,316,061	2,534,700	218,639		935,510	1,599,190
事業総利益	47,413	-328,000	-375,413		-335,510	7,510
<事業外収益>						
受取利息	16	0	-16		0	0
雑収入	0	0			0	0
事業外収益合計	16	0	-16		0	0
当期純利益	47,429	-328,000	-375,429		-335,510	7,510
<税金等>						
法人税等	79,600	72,000	-7,600		0	72,000
税引後利益	-32,171	-400,000	-367,829		-335,510	-64,490

* 一般会計で335,510円の赤字、特別会計で64,490円の赤字、差引税引後利益は△400,000円となる。

探鳥会予告



●市木川河口及び水田探鳥会 10月1日(日)(予備日 10月15日(日))

開催地／南牟婁郡御浜町市木 市木川河口

集 合／9:00 道の駅「パーク七里御浜」

備 考／参加予約必要

●伊勢タカ渡り探鳥会 9月30日(土)、10月1日(日)

開催地／伊勢市 やすらぎ公園

集 合／7:30 やすらぎ公園 納骨堂前

●みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会 10月1日(日) 小雨決行!

開催地／奈良県宇陀郡御杖村菅野 みつえ高原牧場

集 合／8:00 近鉄名張駅 西口前

備 考／参加予約必要

●高見タカ渡り探鳥会 10月7日(日)

開催地／松阪市飯高町木梶 高見峠手前

集 合／8:30 道の駅「飯高駅」

●木曽岬干拓地探鳥会 10月22日(日) 雨天決行!

開催地／愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地

集 合／9:00 愛知県 弥富野鳥園

●香良洲海岸探鳥会 10月28日(土) 小雨決行!

開催地／津市香良洲町 香良洲海岸

集 合／13:00 香良洲公園駐車場

●中村川探鳥会 11月12日(日) 小雨決行!

開催地／松阪市嬉野一志町 中村川中流域

集 合／9:30 ファミリーマート嬉野中川店

(旧サークルK) 前の駐車場

●安濃川河口探鳥会 11月19日(日) 小雨決行!

開催地／津市高洲町 安濃川河口

集 合／13:00 安濃川河口 右岸の先端 東屋

●海蔵川で鳥見 ing! (バードウォッチング) その3

11月21日(火) 小雨決行!

開催地／四日市市西坂部町 海蔵川沿い

集 合／9:45 海蔵川代官橋 北詰

●身近な冬鳥を観察しよう 11月23日(木) (祝)

開催地／津市一身田上津部田 三重県総合博物館周辺のため池

集 合／9:30 (予定) 三重県総合博物館 2階エントランスホール

備 考／参加予約必要 三重県総合博物館 059-228-2283

●三滝川かんさつ会 11月25日(土) 小雨決行!

開催地／三重郡菰野町 三滝川河川敷

集 合／9:30 大羽根グランド駐車場

●木曽岬干拓地探鳥会 11月26日(日) 雨天決行!

(詳細は10月22日と同じ)

●身近な冬鳥を観察しよう 12月2日(土)

(詳細は11月23日と同じ)

●河内溪谷探鳥会 12月3日(日) 小雨決行!

開催地／津市雲林院 河内溪谷

集 合／9:00 長徳寺前の駐車場

●ベルファーム探鳥会 12月10日(日) 小雨決行!

開催地／松阪市伊勢寺町 松阪農業公園ベルファーム

集 合／9:30 ベルファーム 匠の館前

●員弁川探鳥会 12月10日(日)

開催地／いなべ市員弁町 員弁川周辺

集 合／9:00 県立いなべ総合学園高等学校駐車場

●磯部川水系探鳥会 12月17日(日)

開催地／志摩市磯部町穴川 穴川～磯部

集 合／9:30 志摩市磯部町穴川駅駐車場

●横山池・安濃ダム探鳥会 12月17日(日) 小雨決行!

開催地／津市芸濃町 横山池・安濃ダム

集 合／10:00 津市芸濃文化センター駐車場

●木曽岬干拓地探鳥会 12月24日(日) 雨天決行!

(詳細は10月22日と同じ)

探鳥会報告 (2023年4月～2023年7月)



●五十鈴川上流探鳥会 雨天中止

2023年4月15日(土)

伊勢市宇治今在家町 五十鈴川上流

杉原 豊

●五主探鳥会

2023年4月22日(土) 9:00～10:30

松阪市五主町 曾原新田 雲出川河口・大池

西村 四郎 小野 新子 参加者 15名 (会員 14名)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、チュウシャクシギ、ツルシギ、アオアシシギ、トビ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、スズメ、ホオジロ 計 30 種

恒例の探鳥会ですが、去年あたりからさみしくなってきました。雲出川河口から始めますが、シギ・

チドリ類は全然見られず、カモメやカモもほぼいませんでした。強風なので、堤防から降りて探しましたが、カワウ、マガモ、スズガモ等でさみしく、ただカンムリカイツブリの夏羽は良かったです。

大池では、黒くなりかけたツルシギや、シマアジ♂♀が見られました。少し前では40種が当たり前の五主でしたが、今回は30種にやっと届いた感じでした。

●木曽岬干拓地探鳥会

2023年4月23日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地

共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者16名(会員14名)

キジ(2)、マガモ(5)、カルガモ(31)、ハシビロガモ(8)、コガモ(70)、ホシハジロ(2)、キンクロハジロ(2)、カイツブリ(6)、キジバト(10)、カワウ(40)、アオサギ(10)、ダイサギ(12)、コサギ(4)、バン(1)、オオバン(8)、ケリ(6)、コチドリ(12)、タシギ(1)、チュウシャクシギ(1)、クサシギ(1)、ミサゴ(2)、トビ(3)、チュウヒ(1)、オオタカ(1)、ノスリ(1)、カワセミ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(32)、ハシブトガラス(20)、ヒバリ(8)、ツバメ(100)、ヒヨドリ(5)、ウグイス(10)、セッカ(7)、ムクドリ(22)、ツグミ(4)、スズメ(35)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ(8)、ホオジロ(7)、ドバト(35) 計42種

カモ類やツグミのような冬鳥も、渡りの途中のチュウシャクシギ、夏鳥のツバメなどが見られました。ちょうど、季節の入れ替わりの探鳥会でした。

●大湊海岸探鳥会

2023年4月23日(日) 8:30～10:30

伊勢市 大湊海岸(鷺が浜公園)

中西 章 小坂 里香 参加者20名(会員13名)

ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、スズガモ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、シロチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、ハマシギ、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、ムクドリ、ツグミ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ 計34種

探鳥会の一番の目的である春の渡りのシギ・チドリは、数・種類とも少なかったが、海岸の草原にいるセッカ、ヒバリ、ホオジロは行動が活発で、近くで見ることができた。またイワツバメが頻繁に上空

を飛び、じっくり観察することができた。宮川河口付近にはカモたちの残党が残っていた。

久々の大湊海岸の探鳥会であったが、今回の再開を機に定番化したいと思う。

●県民の森 夏鳥かんさつ会

2023年4月29日(土・祝) 9:00～11:30

三重郡菰野町 三重県民の森

鈴木 健真 矢田 栄史 参加者20名(会員11名)

キジ、トビ、サシバ、カワセミ、コゲラ、サンショウクイ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、エゾムシクイ、メジロ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、イカル、コジュケイ 計21種 他に猛禽SP1

スタート直後にさっそくキビタキがお出迎え。かおりの広場ではサシバが上空を飛んでくれました。キビタキが木のてっぺんの目立つところにいる珍しいシーンも皆さんで観察できました。

トンボ池で折り返した後の帰り道では、流れの広場で一瞬オオルリの鳴き声。コサメビタキやサンショウクイが見られました。解散場所付近ではエゾムシクイの美しい鳴き声。葉が茂ってきてなかなか鳥の姿を確認するのは難しい時期でしたが、美しい囀りや姿を確認できた種もあり、夏鳥の良さも再確認できたかんさつ会となりました。

●瀬戸林道探鳥会

2023年4月29日(土・祝) 9:30～12:00

津市美里町桂畑 瀬戸林道

奥山 正次 落合 修 参加者15名(会員14名)

コチドリ、トビ、サシバ、コゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ミソサザイ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計28種

心配していた天候も、明るい曇り空でやれやれでした。美里庁舎では、コシアカツバメの子育てが始まっていて、いくつかの巣には親鳥が出入りしていました。桂畑のイワツバメは、まだ抱卵中の様子で巣に出入りすることはなく、数羽が上空を飛んでいました。(3日後には給餌が始まっていました。)

林道では、川向こうの木の上でさえずるオオルリがじっくりと観察できましたが、期待したクマタカとカワガラスには出会えませんでした。

●香良洲海岸探鳥会 雨天中止

2023年5月7日(日)
津市香良洲町 香良洲海岸
今井 光昌 今井 鈴子

雨で探鳥会は中止としました。来て頂いた方だけで、個人的に駐車場横のサギのコロニーのみを観察して解散しました。香良洲公園の松でゴイサギ、ダイサギ、アオサギが20か所ほど営巣していました。

●上野森林公園探鳥会 雨天中止

2023年5月7日(日)
伊賀市下友生 三重県上野森林公園
前澤 昭彦 南 一朗

5月7日は雨のため中止にしましたが、18日に事後調査で現地へ行きました。

マガモ、カルガモ、ホシハジロ、キジバト、アオサギ、トビ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、キビタキ 計13種

●金剛川河口探鳥会

2023年5月9日(火) 9:30～11:30
松阪市高須町 金剛川河口
中村 洋子 小野 新子 参加者18名(会員17名)

キジ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、スズガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ダイゼン、メダイチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、オバシギ、ハマシギ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計37種

集合場所の公園で渡りの鳥に期待しましたが、留鳥のムクドリがたくさんいた。キジが速足であっという間に消えました。その後河口へ移動、金剛川右岸 石積の所まで以前は水が来ていたが、今は土が堆積して草が生えている。鳥が、近くで見られなくなった。この日はシギチの最盛期、種類が多く出たが鳥との距離が遠かったです。でも、ミヤコドリ60数羽が飛んだり、カキ殻の所で採食しているのを観察できました。

●海蔵川で鳥見 ing!(バードウォッチング) その12023年5月9日(火) 9:45～12:00

四日市市西坂部町 海蔵川沿い
川瀬 裕之 参加者10名(会員6名)

カルガモ、キジバト、カワウ、ダイサギ、バン、ケリ、イソシギ、サシバ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計20種

前日の強風が心配でしたが、当日は少し汗ばむくらいの陽気の中、本年度最初の鳥見 ing 始まりしました。早速出迎えてくれたのはイソシギ。忙しそうにちょこちょこ歩き回ってました。次に姿を見せてくれたのが海蔵川のマスコット、カワセミでした。「ピー」という鳴き声と共に、一直線に飛んでいきました。上空を優雅にダイサギが飛び、川面に目を移すとバンが流れに沿うように泳いでました。また、水面スレスレにツバメが俊敏に餌をとっていました。右岸を歩くと民家の屋根にハクセキレイ、庭木にスズメと賑わっていました。西側にある雑木林の上空には珍しくサシバが姿を見せてくれました。最後に桜並木でコゲラを観察したあと、駐車場に戻り解散となりました。なお、今回はコーワオプトロニクス様のご協力で双眼鏡を貸出して頂きました。ありがとうございました。

●愛知川探鳥会

2023年5月13日(土) 8:30～12:00
滋賀県東近江市甲津畑町 愛知川源流域
辻 秀之 近藤 義孝 参加者4名(会員2名)

コゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、センダイムシクイ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、ホオジロ 計16種

当日午後から雨予報であったため、愛知川源流までの予定を変更し、滋賀県側には降りずに朝明溪谷有料駐車場から根の平峠までの往復とした。

オオルリやキビタキ、センダイムシクイなど夏鳥のさえずりが聞かれ、オオルリはさえずる姿も見られた。根の平峠近くでは、近くでアオゲラの姿をゆっくり観察でき、参加者に喜ばれた。例年なら咲き始めのシロヤシオの花が今年は満開であった。

●青峯山探鳥会

2023年5月21日(日) 9:15～11:30

鳥羽市松尾町 青峯山

濱口 雅也 末長 薫 参加者 15 名(会員 11 名)

ハチクマ、トビ、サシバ、コゲラ、アオゲラ、ハシ
ブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒ
ヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、メ
ジロ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、カワラヒ
ワ 計 18 種

前日までの天気予報と違い、探鳥会当日は、朝か
ら雨が降っていました。伊雑宮から青峯山へ移動し
て探鳥会開始時には、雨が止みましたが、まだ鳥の
動きが少ないようで鳴き声がありませんでした。
この時には、イモリや蛇など地上の生き物を観
察しました。しかし次第に鳥の鳴き声が聞こえてきて
小鳥の他、サシバ、ハチクマなどの猛禽も観察する
ことができました。

●三滝川かんさつ会

2023年5月27日(土) 9:30～12:00

三重郡菰野町 三滝川河川敷

矢田 栄史 鈴木 健真 参加者 23 名(会員 17 名)

キジ、カルガモ、キジバト、トビ、コゲラ、ハシボ
ソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバ
リ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エ
ナガ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、
セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、計 21 種
他にタカ sp(サシバ?ハチクマ?)

スタート直後は 2 羽のヒバリや樹上で元気に囀
るホオジロを観察。ふと空に目をやると大空をトビ
が旋回。シジュウカラのヒナは親鳥から餌をもら
おうと付いて回っています。羽を振るわせて餌をね
だる様子も見られました。コゲラやムクドリの幼鳥
も見られました。3 種類の幼鳥が見られ、この時期
らしい観察ができたのではないのでしょうか。

番外 アオサナエという緑色のサナエトンボの
仲間が見られました。参加者の方からも「グリーン
が綺麗」という声が聞かれました。

●木曽岬干拓地探鳥会

2023年5月28日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 14 名(会員 14 名)

マガモ(4)、カルガモ(5)、カンムリカイツブリ(1)、
キジバト(3)、カワウ(55)、アオサギ(10)、ダイサ
ギ(6)、チュウサギ(5)、コサギ(3)、ケリ(10)、コチ
ドリ(4)、トビ(5)、ハイタカ(1)、ハシボソガラス

(30)、ハシブトガラス(10)、シジュウカラ(2)、ヒバ
リ(35)、ツバメ(20)、ウグイス(10)、オオヨシキリ
(20)、セッカ(60)、ムクドリ(31)、スズメ(6)、ハク
セキレイ(2)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ(10)、
ホオジロ(40)、ドバト(40) 計 28 種

カンムリカイツブリは白化個体で、弱っているよ
うで岸の上で休んでいました。カワウやツバメなど
の幼鳥も観察できました。

●長野県戸隠森林公園宿泊探鳥会

2023年6月9日(金)～10日(土)

長野県長野市 戸隠森林公園

中西 章 西村 泉 参加者 20 名(会員 20 名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサ
ギ、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、トビ、オオ
タカ、コゲラ、アカゲラ、サンショウクイ、モズ、
カケス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨド
リ、ウグイス、エナガ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、
クロツグミ、アカハラ、コサメビタキ、キビタキ、
ニュウナイスズメ、キセキレイ、カワラヒワ、イカ
ル、ホオジロ、アオジ、計 33 種

宿泊探鳥会では初めての戸隠高原での開催とな
りました。6 月の梅雨時の最中、多少の雨は覚悟し
ておりましたが、2 日間とも天気恵まれ、充実した
観察が出来たと思います。やはり 6 月となると葉が
生い茂るのと、早朝が過ぎるとセミなどが鳴きだ
すので、鳥を見つけるのが難しいことから、ベスト
は 5 月中旬頃かなと思いました。それでも、鳥の数
や種類は豊富で、中でも、ゴジュウカラやカッコウ
など高原の鳥を見ることが出来てよかったと思
います。

●霊山寺探鳥会 雨天中止

2023年6月11日(日)

伊賀市下柘植 霊山寺

前澤 昭彦 南 一朗

(6/16 事後調査結果) トビ、アオゲラ、モズ、カ
ケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュ
ウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メ
ジロ、ホオジロ、コジュケイ 計 15 種

●木曽岬干拓地探鳥会

2023年6月25日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 13 名(会員 13 名)

キジ(1)、マガモ(1)、カルガモ(6)、キジバト(3)、
カワウ(33)、アオサギ(15)、ダイサギ(8)、チュウ
サギ(1)、ケリ(4)、コチドリ(2)、イソシギ(1)、カ

ワセミ (2)、コゲラ (1)、チョウゲンボウ (3)、ハシボソガラス (60)、ハシブトガラス (10)、シジュウカラ (3)、ヒバリ (15)、ツバメ (50)、イワツバメ (4)、ヒヨドリ (1)、ウグイス (10)、オオヨシキリ (10)、セッカ (20)、ムクドリ (12)、スズメ (24)、ハクセキレイ (4)、カワラヒワ (8)、ホオジロ (10)、ドバト (15)

計 30 種

鉄塔にチョウゲンボウが止まっているのを観察していると飛んでしまいましたが、しばらくすると2羽でホバリングする姿が見られ、近くで営巣しているのかもしれません。繁殖期のため鳥の数は少なめでした。

●足見川探鳥会

2023 年 7 月 2 日 (日) 10:00 ~ 12:00

四日市市山田町 足見川

笹間 俊秋 参加者 27 名 (会員 14 名)

キジバト、カワウ、チュウサギ、コチドリ、トビ、サシバ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、コジュケイ 計 19 種

朝から良く晴れて気温が上がり、熱中症対策で歩くコースを短くしました。サシバは遠くの木に止まっていたのですが、やがて上空をつがいで旋回してくれました。全部で 19 種が確認できました。

●木曽岬干拓地探鳥会

2023 年 7 月 23 日 (日) 9:00 ~ 12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

笹間 俊秋 参加者 8 名 (会員 8 名)

カルガモ (7)、キジバト (5)、カワウ (40)、アオサギ (7)、ダイサギ (8)、チュウサギ (5)、コサギ (3)、コチドリ (7)、クサシギ (2)、イソシギ (2)、ウミネコ (1)、ミサゴ (2)、トビ (1)、カワセミ (1)、モズ (1)、ハシボソガラス (60)、ハシブトガラス (20)、ヒバリ (8)、ツバメ (24)、ヒヨドリ (5)、ウグイス (15)、メジロ (1)、セッカ (10)、スズメ (26)、ハクセキレイ (3)、カワラヒワ (5)、ホオジロ (10)、ドバト (8)

計 28 種

朝からよく晴れて暑い日になりました。鳥は少なかったですが、サギ類はたくさんいました。魚を持ったミサゴがトビと共に上昇気流に乗って空高く上がって行きました。干拓地ではまだウグイスやセッカがたくさん囀っていました。

編集後記

昨年、骨折してから探鳥の回数が減ってしまいました。そんなこともあり、今回は家の中の探鳥の話題。自宅にいても様々な野鳥の声が聞こえてきます。ホトトギス、ウグイス、セグロセキレイ、フクロウ、キジ、ケリ、モズ、ヒヨドリ、ムクドリ、ヒバリ、ホオジロ、メジロ、ジョウビタキ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジバト、スズメ、……。結構、色々いる(聞こえてくる)ものだ。

今年の7月上旬、ホトトギスが毎朝4時頃に家のすぐそばで大声で鳴いてくれた。おかげでその時期は睡眠不足。例年、もう少し遠くで朝の7時に鳴いてくれていた時には、いい目覚まし時計だったのに。今年、ホトトギスが来る前には、その付近でウグイスも大きな声で囀っていた。それでホトトギスも寄って来たのかな? 来年はその辺りを注目して観察してみたい。

冬から春先にかけては、スズメが2羽、寝室の窓の戸袋を囀(ねぐら)としていた。これが日の出の時間に朝の「チュンチュン」、日の入りの時間に囀入りの「チュンチュン」。日出、日没の時間が変わるとそれに合わせて鳴く時間も、変わっていった。ということ部屋にしながら観察できた。このまま、巣を作るのかと思ったけれども暖かくなったら、もう戻ってこなくなった。

エピソードはまだあります。皆さんの中にも、自宅での探鳥を楽しんでいる人がいらっしゃることでしょ。面白い話題があれば、ぜひ投稿してください。(A.M.)

しろちどり 118 号

2023 年 9 月 1 日発行

題 字: 濱田 稔

表紙絵: 小野 新子

カット: 平井 正志

編 集: 平井 正志・笹間 俊秋・三曾田 明

発行所: 日本野鳥の会三重

平井 正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印 刷: 株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市